第67回宝塚市展　講評

審査員長講評　大野良平

宝塚市展も67回目を迎えました。文化芸術を愛し、洋画（具象）、洋画（抽象）、彫刻・立体造形、写真、デザイン、書、工芸、日本画、それぞれの部門において創作活動に励まれるみなさまに支えられて開催出来ることはまことに喜ばしいことであります。また、入賞・入選作品をじっくり鑑賞していただく多くのみなさまがあっての宝塚市展でもあります。

作品を発表、そして鑑賞する場として生まれた文化芸術センターでの開催も早いもので5回目。魅力ある空間で作品を発表することは、創作する私たちにとっても制作意欲をかきたてられるものがあります。美術の展示空間としてしつらえられた文化芸術センター（たからば）ならではのこと。近年、宝塚市展への応募者数も増加傾向にあります。

さて、今年度の市展の特徴として挙げられることのひとつに30歳未満の若年層の応募が各部門をとおして多く見られたということです。3年前に設けた「若獅子賞」（30歳未満）が雄叫びを上げはじめたと言わざるを得ません。若い息吹を感じる作品がたくさん集まる。我々にとって、これほど素晴らしいことはありません。今回は、洋画（具象）、洋画（抽象）、彫刻・立体造形、工芸、日本画の5部門から候補作が選出されました。

自画像でしょうか。自分と向き合う青年期の内面を強く感じさせる油彩画。昨年に引き続き候補作となったハッピーモンスターで満ち溢れたエネルギッシュなレリーフ状の平面作品。例年にないスケールを感じさせる人物彫刻。ガラスを素材にバランスを兼ね備えた舟形のシャープな工芸作品。骨太さを感じる人物をモチーフとした日本画。選考委員会を経て栄えある「若獅子賞」を射止めたのは、昨年に引き続き彫刻・立体造形部門。満票に近い選出となりました。オーソドックスな具象彫刻ながらもスケールと空間を感じさせる秀逸な作品でした。おめでとうございます。

昨年も書きましたが、われわれ審査員も「若獅子賞」を選出するにあたり、分野の垣根を越えて他部門の審査員（選考委員）の先生方と作品をとおして交流できることはとても意義深いことであります。今後の宝塚市展の発展に大いに期待したいと思います。

洋画部門(具象)　田 川 絵 理

■入賞作品についての講評■

審査員投票が万遍なく散らばった。これは全体のレベルが高い事をも表している。一方突出した格段の力を魅せる作品が見当たらなかったように感じられた。更に充実した制作を来年度は期待してやまない。

アンダー30から2名の奨励賞受賞者が出た。これは、たいへんに喜ばしい。若さとは苦しみ悩む魂といえる。これからも若い想いを深くはぐくみ、そこから力強く羽ばたいていかれる事と期待する。

［優秀賞］ 大原眞一さん「ある小児眼科の壁画の前で」
イラストのお魚とそれに手を伸ばすリアルな少女、イラストとリアルモチーフの描き分けが良くできていてこその作品。

［優秀賞］ 松井靖さん「露地裏」
露地裏の牛。パネルに鉛筆でデッサンのような味を出した佳品。異国の露地の風物に画趣を見いだした。

［優秀賞］ 奥村誠さん「地下街」
人々のスピードある移動、互いに映り込む照明、クリアな建築、それが都会！

［鉄斎美術館賞］ 川東繁さん「ふるさと」
暖かいオレンジ色をベースに人形たちが並んでいる。
アトリエのモチーフたちであるが馴染みの面々に愛を持っているようである。

［奨励賞］ 森陽子さん「Mamán y yo」
蜘蛛を思わせる怪しい生き物と裸婦。実存的な謎が興味を引く。題名は母とわたしというのだが･･･はて･･･？

［奨励賞］ 松田真理子さん「満月の夜」
読書する少女。練達の的確な描写。
沢山のファンタジーが積まれている、彼女の思いの中にも積み重なっているに違いない。

［奨励賞］ 桝本絹枝さん「菜っ葉の季節」
サニーレタスやグリンリーフ、もしかしてキャベツも？全てを均等な枠に配置して、色々な菜っ葉が楽しげに並んでいる。

［奨励賞］ 内橋奈央さん「フィーバータイム」
暑かった夏は若々しいこんな食べ物と蝉の声。

［奨励賞］ 進藤彩夏さん「報い」
女性。若い心の影の部分をも捕まえようと見据えている。

［奨励賞］ 野村涼介さん「誇れか」
裸身の若者。青春の悩みを抱え、若獅子の力を誇りたいのだろうか。

■全体的な総評■

以上奨励賞までの作品を個別に取り上げたが他にも印象深い佳品が多くみられた。それぞれの作者が丁寧に込めておられる想いを充分に汲み取れたか･･･。改めてみなさんが制作の道を衒うことなく悦びをもって継続されんことを応援します。また来年お目にかかりましょう！

洋画部門(抽象)　モ リ ン 児

■入賞作品についての講評■

［優秀賞］ 阿部竜宏さん「二つの存在-気が交わす対話のようなもの」
クッキリと塗り分けられた線で描かれたマンガ的表現は、アートとして充分成立していると思わせます。

［優秀賞］ 深由於さん「君は答えをわかってる」
画面自体を変形で仕上げ、描かれた勢いのあるタッチが全体としてより印象的な作品です。

［優秀賞］ ぼうさん「異なる熱の交差」
緻密な書き込みで色使いも華やかで制作時の入り込んでいる感じが伺える。

［優秀賞］ 芳田澪子さん「作品-’25」
お気に入りのコラージュを活かす為の下地の作り込み、仕上げの処理も作家の個性が現れた作品。

［奨励賞］ 島津貴充さん「Fixed Flow」
CG 出力にカッターでのフリーハンドの細い切り取り、デジタルとアナログの対比が面白いです。

［奨励賞］ 村井正子さん「2025 devenir」
多様な縦のストライプで色面が構成され、その中から奥行きも感じる不思議な作品。

［奨励賞］ 横岑竜之さん「ハッピーモンスター」
新しい素材をキャンバスに取り入れた今回の作品は、新たに彼の表現を広げた展開となって良い作品であった。

［佳　作］ 伊藤愛子さん「debris」
色の滲みによる下地の上に白で塗り形を作り出す手法は、主体と客体の反転を感じさせる。

［佳　作］ 戸田恵子さん「モノクローム(かたちをさがして)」
モノクロでありながら多様な技法マチエールを駆使して出てくる形の面白さを感じる。

［佳　作］ 畠山忠美さん「野の春」
カットされた切れ目から下地が覗いている感じや、構成が面白い作品です。

［佳　作］ 前中一太地さん「妖精」
抽象としては平凡だが、色や構成のセンスを感じる作品。

■全体的な総評■

今年は、＜市展賞＞該当なしでした。優秀賞2点　奨励賞1点増やしての選考となりました。作品を作ろうとせずに、自分にとっての現代の抽象表現を楽しんでほしいです。

彫刻・立体造形部門　田 中 哲 子

■入賞作品についての講評■

［市展賞］ 小林郁子さん「解」
塊の中には人がうずくまり、不思議な世界観があります。そこには、内へ内へと訴えかける何かが心に迫り、逆にそれが大きな力となって発信された素晴らしい作品となりました。

［若獅子賞・鉄斎美術館賞］ 大國貴弘さん「思索」
まず、目に飛び込んで来るのはその圧倒的な存在感。片足立ちの不思議なフォルム。そこに作者の意図を感じ取りました。今後の活躍が期待されます。

［優秀賞］ 安田正裕さん「邯鄲夢の枕」
素材のダンボールと物語が相俟って確かなデッサン力としっかり構築された立体感が功を奏しました。

［奨励賞］ 大西桃子さん「たまごたまご」
石膏の持つ質感と色調がフォルムと共に何とも言えぬ温かさを醸し出し実際のたまごを超え、心に美味しく感じられました。

［佳　作］ 馬場謙二さん「ヤドリ木　八腕」
八腕におしゃれをしているのでしょうか。自分を人間だと思っているのでしょうか。それとも八腕の威を借りた人間なのでしょうか。何とも摩訶不思議な作品です。

■全体的な総評■

今回、彫刻・立体造形部門として、大きさと言い力作が出品されました。年々レベルも上がり、作品として内なる世界観が見られ、益々今後に期待します。選外となった作品には、工芸的かつ手工芸的な物が見られ残念に思われました。

又若獅子賞と鉄斎美術館賞のダブル受賞は作者にとって輝かしい事で大きさのあるフォルムと言い目を見張るものがありました。今後を楽しみにしています。

写真部門　吉 川 直 哉

■入賞作品についての講評ならびに全体的な総評■

第67回宝塚市展へご応募いただきましてありがとうございました。今年も季節の風物、自然、祭事、動物などのほか、日常生活から万博まで、バラエティに富んだ作品が集まりました。その中で『Y 氏の Y 字路　2025』が市展賞に選ばれました。画家の横尾忠則氏が同じテーマで描き続けているのは有名です。単なる真似ではなく横尾氏へのオマージュもあるでしょうが、この作者の作品が、以前から本展内外で評価を受けているのは、被写体を発見する眼とそれを写真作品にする画像処理の表現力です。そのどちらかが欠けると魅力が半減します。優秀賞や奨励賞のほか佳作、入選作品まで、視点の発見とデジタル編集の表現のバランスに長けた作品が目立ちました。一方、過度なトリミングやデジタル加工に頼ることなく、鉄斎美術館賞の『無我』のように、被写体の発見、フレーミング、シャッターチャンスという写真表現そのものが冴える作品も多くありました。残念ながら紙一重で選外になった作品は、技術や機材のせいでもありません。被写体が持つ魅力をどう引き出すかでわずかの差がついたと思います。全体的に題名も研究の余地があると思います。あきらめずに来年のさらなるチャレンジを期待しています。

デザイン部門　相 澤 孝 司

■入賞作品についての講評■

［市展賞］ 二越としみさん「ナイトワークス」
イラストの細部にわたり表現力が高くタイトルのロゴともマッチして、今回もっとも完成度の高い作品である最高賞として評価した。また、キャラクターのペンギンや犬も謎めいていて効果的である。

［優秀賞］ 竹中豊秋さん「いっしょに祈ろう、心豊かに過ごせますように！」
お釈迦さまを中心に羅漢像？を上手く配置している。ほのぼのとするイラストは好感度があり楽しい作品である。

［鉄斎美術館賞］ ニッシンさん「HOPE」
精緻で卓越した表現力は見事であり高く評価した。この技法を駆使してさらに研究を進めてほしい。

［奨励賞］ 赤木政則さん「幻想と色彩のファンタジー」
富士山を象徴的に配置し、様々なイラストを上手く構成している。ファンタジックでワクワクする作品である。

［佳　作］ 貴田レオンさん「夢で見た場所」・Picoglim さん「咎なき棘」
今回佳作となった２点も力作である。受賞作品を参考にして再度挑戦してほしい。

■全体的な総評■

デザイン部門の審査では、今回は市展賞にふさわしい完成度の高いイラストの作品を選考した。ここ数年は市展賞がなく残念であったが、久しぶりの快挙と言える。イラストの作品は毎回レベルが高くなり受賞を逃した作品があった。前回より応募点数が 25 点と減少になったが、全体的なレベルの向上は、いい傾向である。しかし、近年立体の作品での受賞・入選がないのは少し残念である。いつも述べているがデザイン部門の作品は、領域が広く、Gマークの審査でも「モノ」のデザインだけではなく、「コト」のデザインが審査の対象になっている。「デザイン」とは、社会的な背景や社会課題の解決、SDGs に関する地域の活動などのパネルや映像による報告も新たな審査対象とし、独創的かつ挑戦的な作品を期待する。

書部門　山 下 啓 明

■入賞作品についての講評■

［市展賞］ 西村三佳さん「白雲の」
スッキリと明るい作品で潤渇の変化もよろしい。

［優秀賞］ 岸本紅峰さん「袁士元詩」
手慣れた運筆でよろしいが、少し右上りの線に注意してください。

［優秀賞］ 松田尚さん「六言句」
穏やかな線で布置もよろしい。

［鉄斎美術館賞］ 赤城芳翠さん「大漁」
金子みすゞの近代詩文、粘り強い漢字、かなの調和がよい。

■全体的な総評■

今年も各部からのご出品ありがとうございました。
今回は、作品の盛りあがり、二字、三字の気脈が不足している様に感じられました。臨書作品も奨励したいと思いますので、来年は、気魂ある作品を多く応募してください。

工芸部門　香 川 弘 一　／　齊 藤 美 和 子　／　村 岡 靖 泰

■入賞作品についての講評■

［優秀賞］ 三原航大さん「星の海を渡る船」
ユラギが、不安定な中、その材質を生かして、形どった表現方法が今後さらなる磨きをかけて制作活動に取り入れてほしい。

［優秀賞］ 横田和則さん「sunrise」
シンプルな「かたち」に「もよう」のバランスが力強く、丁寧な仕事がよかったと思います。

［鉄斎美術館賞］ noa さん「光をまとう舞姫」
淡い色の釉薬と作品のイメージがきれいだと思いました。
光源をかくす為だけでなく、二重構造による効果も美しいです。穴の空け方にも工夫が見られます。

［奨励賞］ 坂本さくらさん「ストルゲー」
ほのぼのとしたインスピレーションをガラスという物質で創作された作品創りに、今後期待したい。

［奨励賞］ 科野實枝子さん「百合彫文鉢」
大胆な百合の模様と釉薬のムラ、御本手などバランスのとれた好感のもてる作品です。

［奨励賞］ 東村奈乃羽さん「苔の眠り」
点と点との重なりの中に移ろう様を独自の視点で表現されています。全体的に軽やかな色彩でまとまっています。

［奨励賞］ 安田早和花さん「Fairy dress」
熱処理等のガラスの流れをそれなりに表現できているようである。

［佳　作］ 浅野正彦さん「夜を照らす百合」
日本刺繍の繊細さと構図の大胆さが目を引く作品です。

［佳　作］ 荒木三郎さん「宝石箱」
木工組立ての寄木方法で、宝石箱をそれぞれの木を用いて細かく接合完了した工程は努力として認められる。

［佳　作］ 鈴木菜桜さん「あわい」
ガラスにそれぞれに描かれた一面性を立体的に表している努力を感じられた。

［佳　作］ 竹内清さん「ヘビウ」
ヘビウのカービングには、曲線多様作業の中、本来は全体的に一つの個体から仕上がっていればさらに素晴らしいですが、これからその方向に向かってさらに努力してほしい。

■全体的な総評■

今回、工芸部門では、30歳未満の方の出展が多くありました。色彩的にもデザイン的にも若い感覚を感じられます。今後更に技術を磨き、新しい作品を期待します。

日本画部門　潮見冲天

■入賞作品についての講評■

［市展賞］　林田花菜さん「重ねて」
若獅子賞の候補にも挙がった作品です。荒々しさの中にも深い表現があり、その点が評価されました。デッサン力が確かで、人物の表情など、表現力が光ります。無骨な指が、この人の人生を表しているように見えます。さらに、枠と背景の色が馴染んでおり、まるで板に直接描いているような質感を生み出しています。日本画は人物が基本の世界です。センスを感じられる作品です。

［優秀賞］　土井美智子さん「秋光」
水墨山水の最たるものです。水を描かずして、そばの岩を描くことで水を感じさせています。空気遠近法が感じられます。

［鉄斎美術館賞］　柳沙奈さん「喧騒の中で」
浴槽を題材にする発想がいいです。浴室全体の温度感まで伝わってくるようで、色彩にも統一感があります。まるで浴室を使用しているような光景も思い浮かびます。この若さでここまでの処理、表現ができる点を高く評価します。

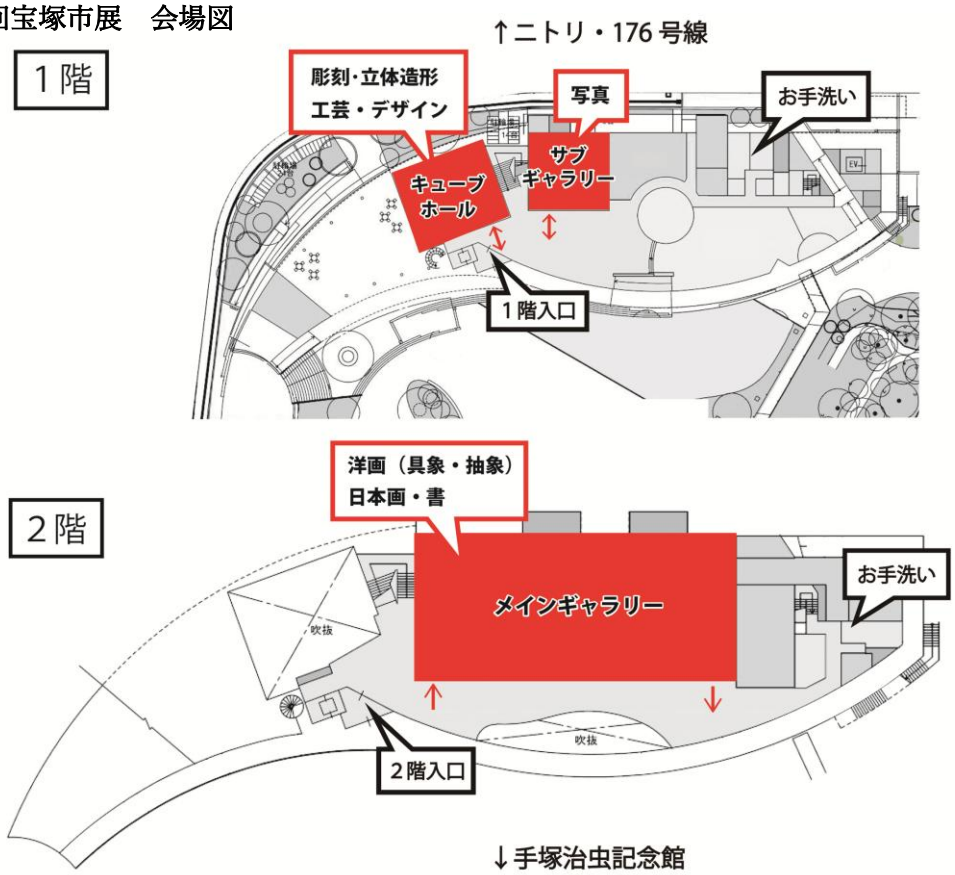
［奨励賞］　中垣杏香さん「切れ間」
モチーフの選び方が斬新。つい何かをクローズアップして描きがちですが、この風景全体を捉えようとする発想がよいです。また、作品と額の色に統一感があり、調和がとれています。レンガなど、本来はこの色ではないはずですが、自分の色目を通しており、色調としては悪くないです。水の流れをこの色で表現するなど、色へのこだわりが感じられます。

［入　選］　西川左希子さん「遠き日」
経験、実績、実力、目を見張るものがあります。過去に何度か入賞経験があるので、今回は協会員推挙とさせていただきました。

■全体的な総評■

賞には入らなかったけれども、好感の持てる作品が数多く見受けられました。来年もぜひみなさん奮ってご出品ください。

■第６７回宝塚市展　会場図



第34回宝塚芸術展

宝塚市文化連盟に所属するアーティストの作品を展示。
ハイレベルな技術と優れた感性に溢れた作品をご堪能ください。

会　期　　12 月 11 日(木)～19 日(金)　※15 日(月)は休館
　　午前 10 時 30 分～午後 5 時 30 分(最終日は午後 3 時まで)
会　場　　宝塚市立文化芸術センター(たからば)
入場料　　無料

【宝塚市展　事務局】
（公財）宝塚市文化財団 TEL／0797-85-8844（9:00～17:30　水・日・祝休み）E-mail／info@takarazuka-c.jp